

二
説スル時ハ一朝一夕ニシテ解釋シ得ルニ足ルモノニテモ之ヲ
理學的ニ檢査シ化學的ニ試驗シ實學ニ徴シテ研究スル時ハ其
容易ナラサルヲ如此況ヤ脚氣病ノ如キ治驗未タ廣カラス病屍
解剖未タ多カラス幸ニシテ本院ヲ設ケラレ各派ノ名士ヲ集メ
協同以テ其病理治術ヲ研究セシメラル、ニ於テ初メテ研究ノ
端緒ニ就クモ年月未タ久シカラス事業幼稚ニ於ケルヲヤ未タ
實學上ニ公言ス可キ成績ヲ得ルニ至ラス此篇例ニ由テ首ニ總
表ヲ掲ケ次ニ各委員ノ申報ヲ列序ス但シ各委員三年來ノ經驗
ニ於テ發明自得スル所ノモノナキニアラサレモ尙キ經驗ノ數
ヲ重テ格物致知ノ實學ニ徴シテ後々ニアラサレハ世ニ公ニス
ルヲ欲セス此ニ列序スル所ノモノハ本年中ニ於テ處スル事業
ノ一斑大旨ニ過キス覽者此ヲ以テ全豹ト認ムルヲ勿レ
本院建設ノ初年ニ於テハ各員各其學派ノ同一ナラサルヨリシ

テ治術上ノミナラス常ニ其說甲乙背馳スルモノ多カリシカ本
年ニ至テハ例ヘハ今村氏ハ屢洋藥ヲ試用シ佐々木氏ハ傍ヲ博
ク和漢醫書中ニ於テ脚氣ヲ論スルモノヲ講究シ以テ參考ニ供
シ審査員ハ秘藥ヲ分析シテ效分ノ有無ヲ究メ遠田氏ハ病體解
剖ニ臨テ其解剖的檢査ノ細密ナルヲ悦フ等以テ諸員協同經驗
ノ效ヲ望ムモノ其機熟セリト云フヘシ

○脚氣病院患者總表第一

附入院患者一覽表

脚氣病院患者總表 自明治十三年四月一日至同十二月十日
患者總計五百零八名

入院患者百六十六名	百二十三名	全癒退院
男百六十名	八名	半癒退院
女六名	十一名	事故退院

内

外來患者三百四十二名

内 男三百三十三名
女 九名

八名 死亡

十六名 後遺

脚氣病院入院患者一覽表

自明治十三年四月一日
至同 十二月十日

病室區分	患者數	全癒	半癒	事故	死亡	後遺	患者百人中就 全癒比例	委員姓名
第一區	三三	二三	一	五	四	〇	六九、六九七〇	今村 亮
第二區	四六	三五	二	〇	一	八	七六、〇八六九	小林 恒
第三區	六〇	五〇	二	〇	三	五	八三、三三三三	佐々木東洋
第四區	二七	一五	三	六	〇	三	五五、五五五五	遠田澄庵
合計	一六六	一二三	八	一一	八	一六	七四、〇九六四	

備

考

第一區ノ死亡四名中一名ハ入院十二時間内ニ死亡シ、者又其
事故退院五名中一名ハ腸窒扶斯病ニ罹リタル爲ニ退院セシメ
タル者ナリ
○第四區ノ事故退院六名中一名ハ外出ノマ、逃亡
シ、者一名ハ第三區ヘ轉入シ、者ナリ